

月歩学歩

「げっぼがっぼ」と読んで欲しいが、その意味は、“月日を歩き、学んで歩く”ということ？



特集

「こども臨床研究所」

【千葉明德短期大学には、附属組織として「こども臨床研究所」があり、保育に関わる研究、研修を目的としています。2年前からは「卒業生センター」の活動も開始し、年々充実してきています。

学生の皆さんは、卒業後の5年間までイメージした「学びの創造プラン25」を作成していると思いますが、こども臨床研究所の活動は、卒業後も皆さんを支えていくことにつながります。】

(由田新・籾光夫・石川優子)

2-5P

その他の内容

キャンパス・ライフ

- ◆ 1年生の「児童文化」 (高森 智子) 6-7P
- ◆ 1年生の「学び合いのためのプログラム①」をふりかえって
(伊藤 恵里子・田中 葵・鶴田 真二) 8-10P
- ◆ 学生生活から (鶴田 真二・田中 葵) 11-13P 教員生活から...13P

関連フィールドから

- ◆ 「明德そでの保育園誕生」 (園長 野村 紀子・由田 新) 14-15P



特集 「こども臨床研究所」

こども臨床研究所の活動について

記：由田 新

千葉明德短期大学には、附属組織として「こども臨床研究所」があり、保育に関わる研究、研修を目的としています。2年前からは「卒業生センター」の活動も開始し、年々充実してきています。学生の皆さんは、卒業後の5年間までイメージした「学びの創造プラン25」を作成していると思いますが、こども臨床研究所の活動は、卒業後も皆さんを支えていくことにつながります。

今年度の主な取り組みとして、次のようなものがありますのでご紹介させていただきます。

(1) 研修生制度～「保育臨床研修コース」

今年度スタートの新しい試みです。次ページより詳しいご紹介をさせていただきます。

(2) 卒業生センター ～ 卒業生ホッとカフェ／相談／研修

2年前から始まった卒業生センター。卒業生が集えるような場を用意したり、仕事にかかわる相談に応じたりしています。今年度は、研修に関して、(5)に挙げた新たな試みを始めました。

(3) 公開講座「めいトーク」

保育の現場の方々に向けた公開講座を継続して行っています。

今年度は6月29日(土)に実施します。保育部門と福祉部門の二本立てです。初の試みとして、保育部門は明德の「総合保育創造組織」の一員である附属幼稚園の協力のもと、保育見学をした上での研修会を行います。また施設部門は、1日ゆったりと時間を使い、施設での仕事について、自分自身のあり方等についてじっくり話し合います。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

もちろん、学生の皆さんも参加できます。現場で働く方々の話し合いの中に身をおいてみるのもいい学びの機会になると思います。

(4) 教員免許状更新講習

8月の後半に幼稚園教諭向けに特化した免許状更新講習を実施いたします。明德には現場の保育実践に関心をよせる教員が多く、その特色を生かした講習内容を組み立てています。



(5) 「保育実践研修会」

卒業生のための新しい企画です。卒業してしまうと保育について話す場、考える場がないという卒業生の声をよく聞きます。○○先生のゼミの私的な勉強会ということではなく、今回、学校の組織的な取り組みとして卒業生のための研修会を定期的で開催していくことにいたしました。第1回目は5月31日(金)です。すでに卒業生からの参加申し込みが届いており、今後の展開が楽しみです。

(6) 卒業生向け情報誌『今を紡ぐ』の発行

卒業生の現在・明德の現在～卒業生と明德をつなぐ冊子を発行しています。

以上が、取り組みの概要です。今年度は、数々の新しい試みにチャレンジしています。その中でも、今回は、「研修生制度～保育臨床研修コース」について詳しく、ご案内させていただきます。まずは、笹学長の「研修生制度～保育臨床研修コース」についてのメッセージを掲載します。そして、具体的にどんな内容で行っているのかを報告させていただきます。



研修生制度を利用した「保育臨床研修コース」実施にあたって

記：笹 光夫

今年、4月から研修生制度をスタートさせた。その背景にあったのは、今の保育者養成への限界と、現場との連携によって見えてくる可能性にかけたいという思いである。

短期大学での2年間の教育課程を修了し、有資格の専門職として保育の現場に入る卒業生の姿。そうなりたいという思いに押されて、そうなるろうと決意した人たちの養成に努める私たちの姿。私たちの役割として、2年間という短期間で専門職の担い手たちを養成しながら、多くの卒業生を送り出してきた。学生の成長を実感しながらも、せっかくここまで学べたのだから、あと一步…、もう少し…、このままでは…、という思いとともに。卒業生たちからも、やっと学ぶことの面白さがわかってきたことで、もう少し学びたい…、もう少し深めたい…等々の声も聞こえてくる。足りないことが見えてきて、やっと向き合いたい自分の課題に辿り着けそうな学生たちもいる。真剣に学ぼうとした足跡の先に、おぼろげに不足感が見えてくる。

かつて、岸井慶子先生の在職中に、数人の卒業生を対象に、先生の

個人的な関係の深い幼稚園で、研修生として1年間の現場で学ぶ機会を持ちながら、本格的な保育者の道を歩む卒業生を支える試みがあった。こうした試みは、研修生制度として制度化されたが、組織的・恒常的に展開されてこなかった。今年度からこの制度を運用して、本格的な組織的取組を始めた。

具体的には、研修生は非常勤職員として保育現場で働きながら、月2回程度の短大でのスクーリング、短大で取り組む様々な講座への参加、お互いの現場を訪問しあい、また本学と関わりの深いユニークな実践をしている現場を訪問する、等々2年間で深めてきた自らの学びを更に深めることを目的とし、取り組んでいる。この取り組みに4月から6名の研修生が参加している。

この試行は、これまでの私たちの教育構想の流れの先に位置づけられる。保育の実践をベースに置く学びのプログラムの展開は、短期大学の2年間の学びのあり方についても問い直す機会となるだろう。その意味においては、研修生の発意を、できる限りプログラムの中に反映しながら、ともに創り上げたいという思いで臨んでいる。

そして、研修コース試行の先に 見えるもの

この研修コースの運営方法・研修プログラムを考えながら、この制度は卒業後間もない卒業生のためだけでなく、今現場で働く卒業生を参加対象とすることも可能ではないか、いやむしろ卒業生の参加で、現場・保育実践をベースにした学びの展開はダイナミクスを発揮するだろう。今後は現役保育者へも拡げて展開したいと思う。保育現場で働きながら、もう少し考えてみたい、自分は今のままで良いのだろうか等という様々な思いを抱いている人たちも参加し、働き方を工夫しながら1年間、自らの保育を見直す機会に利用する人の参加も可能となるだろう。卒業後5年間支援することを謳っている考えの延長線上に位置づけることで、スムーズに構想できると考えている。

6名の研修生を運用に乗せつつ、次年度の研修生を広報・募集し、その受入先を打診しながら、訪問する作業が続けられる。——そこには、共感する園長との出会いが必ずある。地道な取組が、私たちと連携して、養成し合う保育現場を確実に増やしていくことがこれからの課題である。

研修生制度の今

記：石川 優子

研修生制度をスタートさせ、2ヶ月が経ちました。今までにはスクーリングを2回、乳児保育の勉強会を1回実施しています。乳児保育勉強会は、乳児クラスに配属されたけれど、右も左もわからない状態なので、もう一度学びたいという研修生の要望に応える形で実施しました。

スクーリングでは、研修生が「子どもの様子をつかむため」、「日々の保育の振り返りのため」等、それぞれ目的を持ち記録を取っていたことから、記録の書き方と保育を見る視点について話し合いを始めたところです。記録は無意識に取っているかもしれませんが、今の自分が何を振り返りたいか、何を押さえたいと思っているかによって、もちろん書き方も違ってきます。記録を振り返ることで、一人ひとりの今の関心が見えてくるのではないかと、次回のスクーリングも楽しみにしています。

また、5月には保育実践研修会と称した卒業生が保育実践について語り合う場への参加、6月には、相互見学会として、研修生が働く研修先の一つである若竹保育園に全員で訪問する予定です。今の職場とは違った環境に身を置くことで、刺激をもらえるのではな

いかと思います。他にも夏には県内外の保育施設へのフィールドワーク（保育のことをとことん議論する合宿）等も企画中です。

このように研修先や様々な保育現場、卒業生等のお力をお借りしながら、研修生の学びが豊かなものになるために試行錯誤中です。きっと面白い取り組みが生まれると思いますので、その時は、またご報告いたします。



在学生のみなさん！

みなさんが、もっと学びたい、考えを深めたいと思った場合、こんな進路も選択肢としてあります。保育者として常に問い続ける姿勢を深めてみませんか。

※なお、研修生制度「保育臨床研修コース」は、今年度より試行しました。内容も方法も研修生や研修先と相談しながら模索している段階にあり、名称も理念に沿うよう検討に検討を重ねております。今年度の試行を経て、再度検討し、決定する予定です。

キャンパス・ライフ

1年生の「児童文化」

記：高森 智子

子どもの頃のことを、覚えていますか？

周囲の大人に、絵本を読んでもらったことはなかったでしょうか。寝る前に、お話をしてもらった人もいるかもしれません。大きな声で歌ったり、歓声を上げて追いかけてっこをしたり、公園の遊具で遊んだりしたこともあったでしょう。時には、おもちゃの取り合いでケンカになったこともあったかもしれません。

こうした幼い頃の記憶には、そこかしこに児童文化のテーマが散らばっています。私たちの生活から切り離すことができない様々な文化の中でも、特に子どもと意図的に関わる保育者に求められている知識や技能を学ぶのが、「児童文化」の授業です。

児童文化の授業が行われるのは月曜日の3・4限。22A B教室に前半と後半に分かれてやってくるのは、この春入学したばかりの1年生です。昼食後のちょっぴり眠たくなる時間帯ですが、各回60名前後の1年生たちは、熱心に講義に耳を傾けています。

しかし、ただひたすら話を聞くこ

とだけが児童文化の授業ではありません。ある日の授業では、教員によるたくさんの絵本の読み聞かせが行われました。またある時には、人によっては慣れない手つきで四苦八苦しなながら、折り紙でカエルを作ったこともあります。さらには月に一度、短大の近くにあるスターバックスコーヒー千葉おゆみ野店におじゃまして、小さなお客様を相手に「お話ライブ」を開催するという企画も。児童文化では理論的なことも学びますが、それ以上に、「実際にやってみる」ということが大切なのです。

その一環で、4月27日・30日にはフィールドワークも行われました。行先は、上野にある国際子ども図書館と、四谷三丁目にある東京おもちゃ美術館。どちらも、児童文化のテーマと深く関わる場所です。

元は日本初の帝国図書館だった国際子ども図書館には、その美しい外観の建物内に、国内外の絵本や児童書、関連資料が数多く収蔵されています。閲覧スペースに並んだ絵本を手に取り、友達同士で楽しそうにのぞきこんでいる学生もいれば、メモを

取りながら熱心に企画展を回っている学生もいました。日本人作家の翻訳絵本がオリジナルとともに展示されていたコーナーでは、一冊一冊を手に取り、国によっては主人公の名前が変えられていることを発見して、得意げに報告してくれた学生もいました。

一方の東京おもちゃ美術館は、小学校の跡地に開館されたおもちゃの美術館です。企画展やグッド・トイの展示もありますが、この美術館の一番の面白さは、やはり実際に手に取って遊ぶことができるという点でしょう。おもちゃの対象年齢は、乳幼児からもう少し高い年齢の子どもまで幅広いですが、おもちゃの中には大人でも意外と頭を使うものがあります。ここでも学生たちは、パズルや知恵の輪に頭を悩ませたり、インストラクターの指導を受けてベーゴマを回したり、オセロ名人一人を相手に4人がかりで対戦を挑んだりして、子どもたちの中に混じって楽しそうに遊んでいました。帰り際に、ミュージアムショップでお気に入りのおもちゃを買っていた学生もいたようです。

これからも、この授業ではさまざまなテーマを取り上げ、実際にやってみることを通して学んでいきます。有形であれ無形であれ、その楽

しさを知ることなしに、児童文化の文化財を使うことはできません。まずは自分が、誰よりもその文化財を楽しむこと。そして、保育者として現場に立った時に、子どもたちと一緒にになって楽しむこと。何歳になっても、夢中になって遊んだ頃の気持ちを忘れないこと。それが、児童文化を学ぶ上で大事なことではないでしょうか。

学生たちが、他の授業で学んだこととも連動させながら、いつか子どもに負けないくらいの笑顔でその面白さを伝えられる大人となるよう、教員側も楽しみつつ日々学んでいきたいと思います。



1年生の「学び合いのためのプログラム①」をふりかえって

記：伊藤 恵里子・田中 葵・鶴田 真二

「学び合いのためのプログラム」は、通常授業とは異なり、1学年が全日かけて取り組む総合的なプログラムです。

5月9・10日と2日間に亘り行われた第一回目となった今回は、<学び合うための下地作り>として、下表の流れで行われました。1年生にとってこの2日間は、そしてこの1ヶ月がどのようなものであったか。学生の文章を読んで、こちら（教員）がハッとさせられるものが多くありました。今回はその中から2名のふりかえりと、2日目に作成した「関心マップ」をご紹介します。

学生のふりかえり（抜粋）

塚原 柚子

<このプログラムをふりかえって>

2日間「学び合いのためのプログラム」を行って、一番大きく思ったのが「考えさせられた」ということ。強制されたとかではなくて、自分だけでは考えられなかった事を、他の人の質問や意見、考え方に触れる事でたくさん考えさせられた。特に記者会見と関心マップでは、「こ

ういう方法もあったんだ！」とか、「こんな繋がりもあったんだ！」という発見や、他の人に質問されて、自分はそこまで考えていなかったなと思い、初めて考えてみる事などがあった。フィールドワークでは、同じ場所を同じように歩いてきたのに、思った事などを書いてみると、自分とは違った考えなどがでてきて面白かった。

<この1ヶ月をふりかえって>

この1ヶ月で物事に対する考え方が変わってきたと思う。

入学前は、体験から学ぶとは「自分が体験する」＝「体験からの学び」だと思っていたけれど、本当に大事なのは仲間と体験して、思った事や考え方を伝え合い、そこからまた考えるということなのだと思う。まだ1ヶ月しかたっていないから、今の考えもまだ「わかったつもり」なのかもしれないけれど、今の考えからさらに発見できるようにこれからも体験を重ねていきたい。

日程	内容
5/9(木)	1. 合唱「この星に生まれて」 ピアノ：西澤 円花さん 2. 本プログラムの趣旨説明—総合演習「学ぶ」とは？より 3. 幼稚園実習に関する「記者会見」 4. 学外フィールドワーク—探検！わたしたちのまち
5/10(金)	1. 前日の学外フィールドワークふりかえり グループで選んだ一枚の写真にコメントを書く 2. 「関心マップ」作成 3. 合唱「この星に生まれて」 ピアノ：西澤 円花さん 4. ふりかえり

大槻 洋平

＜このプログラムをふりかえって、この1ヶ月をふりかえって、これからに向けて＞

入学してからこの1ヶ月間、授業の内容を学び覚えることもそうですが、文章を書くことに多くの時間をさきました。文章の書き方はある程度覚えられてきているとは思いますが、書く内容については、まだまだ悩むことが多いです。ただ、私が文章内容を考える際に毎回ひっかかる場合は、「感想を書いてほしい」という時です。「感想」という言葉を辞書で調べると、「心に浮かんだ思い」と出てきます。私は、この「(心の)思い」というところにひっかかるのです。

他人の作文や感想文を読むと、自分の文章とは異なり、魅力的な言葉をつかい、まるでその場にいるかのように連想させてくれます。私には決して真似ができないと、いつもいつも感心しながら読んでいます。自分にも、同じように分かりやすく書ける技術がほしいと考えています。

しかし、私は思います。「思い」とは、事実を表しているのだろうか、と考えてしまいます。私は、なるべくウソをつきたくない、いつも考えています。何事も事実にもとづき、真実を正直に語りたいと考えています。私は「感想を書く」行為にウソがあるのではないかと、ウソが入り込んでいるのではないかと、幼い頃から考えていました。そのため、感想文を書けば書くほ

ど、上手になればなるほど、ウソつきになるのではないかと思っていました。私が、具体論を避けた抽象論を好まないのも、こうした感想文に対しての違和感が関係しているかもしれません。

文章を書くことは今後も悩んでいくと思います。ただ、事実にもとづくことや、感想ではないことについては、ある程度長く書けるので、実習のレポートは意外と短時間で書くことができるかもしれません。(中略)

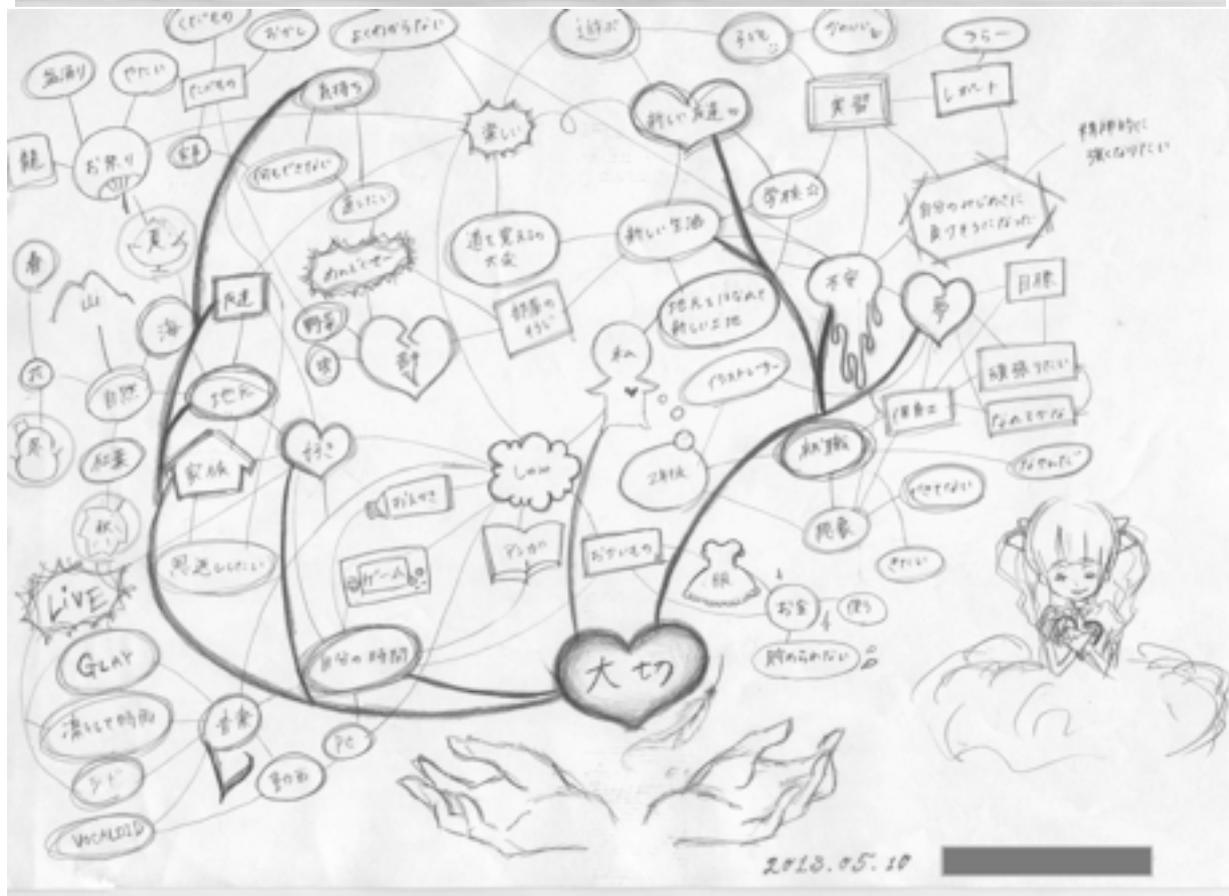
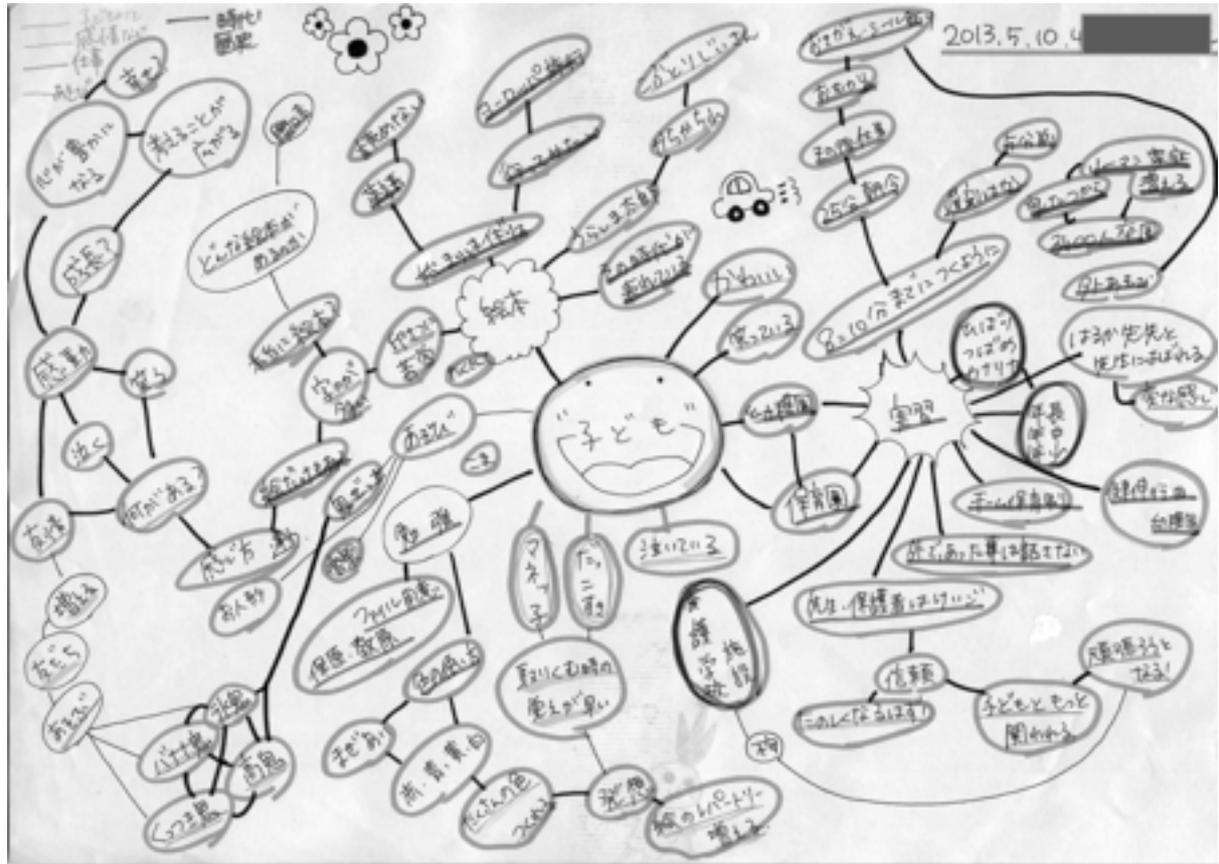
メモは、過去を振り返るだけでなく、未来を考えることにも使えると思いました。メモには先生方の言葉を書きました。その多くの内容は今後も考えていかないといけなことです。

例えば、「学ぶ」という言葉です。学ぶことは、学ぶ姿勢や学ぶ意欲がないとできません。これは、過去できたから今後もできるとは限らないです。いつも、学ぶことを考え、行動に移さないと、学ぶ姿勢は無くなってしまいます。だから、考え続けられないといけません。

同じ文字を書くのでも、文章を書くことほど、苦勞することはありません。どうすれば、感想文が書けるのか分かりませんが、なるべく事実に基づいた内容を書いていきたいです。



1年生の「関心マップ」



学生生活から

記：鶴田 真二・田中 葵

学友会役員選挙

今年度の学友会役員選挙が5月9日（木）に行われ、下記の役員に決定しました。学友会は、学生自身が学生生活をより豊かに充実したものとするための会です。代表は下記の役員ですが、会員は学生みなさんです。5月16日には、早速第一回学友会会議が開催されました。



会長	松坂 祐太（2年生）
副会長	成田 明音（2年生）；今村 彩香（1年生）
書記	鈴木 利美（1年生）；杉本 渉（1年生）；片山 瑞穂（1年生）
会計	渡邊 有希（2年生）；新田 雅幸（1年生）

サークル紹介

今年度は、学生たちが新たなサークルをぞくぞくと立ち上げ、現在14ものサークルが活動中です。今月号と来月号の2号に亘り、サークル紹介を掲載します。

【サークル名】	【部長】	【活動日】
バスケットボール	坂田 隆也（2年生）	月・水
フットサル	柳 亮輔（2年生）	木
バレーボール	津川 徳政（2年生）	月・水
バドミントン	若月 美和（2年生）	水
バンド	浪崎 光子（2年生）	火・金
軽音	長谷川 祐司（2年生）	水・木
ハモリ場	吉澤 睦（1年生）	金
ダンス	前澤 祐菜（1年生）	水
園芸	高岡 あゆみ（2年生）	毎日
和太鼓	中橋 ありす（1年生）	水
大工	大槻 洋平（1年生）	水・木
アニメ文化	杉本 裕樹（1年生）	火
ソフトボール	高江洲 匡（1年生）	土
バレエ	森谷 夏実（2年生）	火

* 自転車サークルが立ち上がり中です。

バスケットボール

バスケットボールサークルは、週に1回月曜日の19時から21時まで活動しています。普段は各自準備運動が終わり次第、2チームに分かれてミニゲームを行っています。毎週サークル後は心地よい疲れと共に解散しているの、良い運動になっています。

このサークルには個性豊かな学生が集まっています。体育館は賑やかです。興味がある方はぜひ体育館を覗いてください。

(記：坂田隆也)

フットサル

私たちフットサルサークルは、毎週木曜日の18時から20時まで、千葉寺駅近くのフットサルコートをレンタルして活動しています。初心者の方も楽しめるよう、ゲームのルールを変える等工夫していますので、男女含め、多数参加しており、皆で楽しく活動しています。

サッカー、フットサルに興味がある方は、木曜日17時に食堂に集まっていますので覗きにきて下さい。(記：柳 亮輔)

ソフトボール

ソフトボールサークルでは、個々の技術ではなく、メンバー同士の交流をメインに活動していきたいと思っています。少しでも興味のある人は、用具のある・ないに関わらず、誰でも大歓迎です。

また、将来的には、施設や障がい者の方々と試合を行う計画を考えているので、学びの一環として、活動していきたいと思っています。興味のある方は、1年生の新田か森まで声を掛けて下さい！(記：森 誉太)

大工

5月に結成して始動した大工部。現在の部員数は11人。女性が8名と男性が3名。部員の多くは、大工未経験です。顧問の得重さんの下で学んでいます。

倉庫の廃材を利用して、有名デザイナーリートフェルトの椅子を作ります。できた作品は学園祭で展示する予定です。

入部を希望される方は、アシスタント・カウンターの得重さんに声をかけてください。よろしくお願い致します。

(記：大槻 洋平)

ダンス

ダンスサークルは今年から始めたばかりで、部員は現在女子5人です。毎週水曜日の17時から18時30分まで活動しています。主な活動内容はダンス練習で、踊る曲の種類は、今はボカロ中心ですが、踊りたい曲があれば、J-POPなど幅広く踊ります。学園祭やライブで発表しようと思っているので、見に来て下さい。

(記：前澤 祐菜)

和太鼓

今年度は2年生がいなかったため、現在は1年生女子4人のみで活動しています。活動は、リズム室にて、毎週水曜日の18時半から19時半までの1時間行っています。

内容は、地域に伝承する曲と盆太鼓で、学園祭でも発表する予定です。急がずのんびりやっと思いいます。初心者の方も大歓迎ですので、興味のある方はぜひ見に来て下さい。よろしくお願ひします。(記：中橋 ありす)

バドミントン

バドミントンサークルは、毎週水曜日の19時から20時45分まで活動しています。経験者、初心者の方もいて、仲良く試合をしたり練習したりしています。2年生も1年生も大歓迎なので、ぜひ来て下さい！（記：若月 美和）

自転車

昨年の8月、「ぶらり自転車ひとり旅」と称して、房総半島の南半分を真夏の太陽に見守られながら自転車で周りました。体力的・精神的疲労は甚だしかったのですが、走り終えた達成感と、白里海岸で眺めた砂浜と海、勝浦で目を奪われた広大な海と空と山、中央区で迎えてくれた朝陽などへの感動は、最高の思い出になりました。自転車に興味のある方はよろしくお願ひします！サークル活動

として、今年の夏には千葉県を一周する予定です（「自転車千葉県一周計画」をご覧ください）。（記：鶴田 真二）

「自転車千葉県一周計画」の紹介

現在、8月13日～16日（予定）の4日間をかけて、小木曾宏先生（「現代社会論」担当）が施設長を務める「児童養護施設 房総双葉学園」の高校生と一緒に自転車で千葉県を一周する計画を立てています。房総双葉学園の高校生は、高校生活の思い出に千葉県を自転車で一周したいという素敵な思いを抱いています。高校生と一緒に自転車で走る日を、今からとてもワクワク・ドキドキしながら心待ちにしています。計画の詳細はまだ決まっていますが、学生の皆さん、卒業生の皆さん、地域の皆さん、私たちと一緒に走りませんか？（記：鶴田 真二）

教員生活から...



5月11・12日、下記の教員が、日本保育学会第66回大会（福岡）にて発表しました。

口頭発表

金 瑛珠『乳幼児の保育の特性に関することばの意味を問い直す(1)～「養護」と「教育」を

一体的に行う、とは～』

石井 章仁（他：共）『保育現場と養成校との協働による保育所実習のあり方V～保護者支援に関する学生の学びの実態～』

ポスター発表

深谷 ベルタ・池谷 潤子・田中 葵『保育者養成における表現教育の試み～合同ワークショップにおける成果と今後の課題～』



◀教員も人間です。

仕事の合間に息抜きをすることも、ハメを外すこともあります...



関連フィールドから

明德そでの保育園誕生



由田 新

本学は、学内にある子育て支援施設及び、関連施設である幼稚園1園・保育園4園とともに「総合保育創造組織」として連携し合い、保育実践と研究、養成に取り組もうとしています。今回の関連フィールドの紹介は、「総合保育創造組織」の一員である明德そでの保育園です。そでの保育園は、習志野市の袖ヶ浦団地近くにあり、最寄り駅は京成津田沼になります。市の公立保育園から1年間の移行期間を経て、この4月から正式に開園となりました。

短大としても、産声をあげたばかりのそでの保育園がよりよい保育の場となるように協力していきたいと考えています。つい先日も小久保先生がゼミの学生を連れて環境整備のお手伝いに伺いました。「総合保育創造組織」の一員として、学生も教員も含めて共に考え共に支え合っていきたいと思えます。

学生の皆さん！！ 園では、多くの人手を必要としています。皆さんもボランティアとして参加し、新しい明德の保育の創造に立ち会いませんか。興味のある方は、安恒先生、由田へ声を

かけてください。

園長先生からメッセージをいただきました。以下にご紹介させていただきます。

園長 野村 紀子

明德そでの保育園は、習志野市立袖ヶ浦第二保育所の私立化により、誕生しました。

習志野市の私立化ガイドラインに沿ってプロポーザルを受け千葉明德会が選ばれ、平成24年1月から3月までの期間を園長・主任、保育士含め6人と、栄養士・看護師が習志野市の保育教育計画に沿って引き継ぎを受けました。

保護者にとって私立化されることは大きな不安があり、保育の低下につながるのではないかと、市の職員から明德会に代わる時に子ども達が不安定になるのではないかと、行事はどうなるのか、いろいろなことが思いとして現れました。しかし、平成24年4月から1年間保育を積み重ね、子どもの育ちを通して安心できる状況が、保護者の理解へと繋がり明德会への信頼が確かなものとなってきました。子どもの育つ環境を大切に、保護者の思いを受け

止め、子どもの心に寄り添い、職員一丸となり運営を進めてきたことの現われではと思います。子どもが主体となるような生活環境を工夫し、4歳児5歳児クラスは食事の場と昼寝の場を別にし、雑然としていた空間をランチルームに変えるため、エアコンを設置、その際もまだ施設の買取りの完了をしてない時で、市長の了解を得てのことでした。積極的に子ども達のために進めていくには職員の共通理解を大切に、率直な意見を交わすことによりスムーズな保育へと繋がったのではと思います。

平成25年3月28日に習志野市副市長より施設の引き渡し目録を福中理事長が受けました。プロポーザルの際、理事長のプレゼンテーションの素晴らしさが評価され、結果として明德会が今存在することを副市長よりお話がありました。明德会の2園目の保育園として記念すべき歴史の一步です。

平成25年4月5日は明德そでのの保育園開園、除幕式と記念植樹が行われました。宮本習志野市長はじめ保育課の方、明德会、明德学園、明德短大の

先生方、大勢の方がご臨席され賑やかに行われました。保育園の看板は園歌“なかよし広場”をモチーフにし、彫金作家でもある東京芸術大学助教授の保護者の方に制作をお願いしました。自然豊かな情景が繊細に表現され（だんごむし・ちょうちょう・せみ・桜・イチョウの葉など）子ども達が思わず触りたくなる看板です。明德そでのの保育園のスタートとして記念すべきこの日、プレゼントに三輪車やスクーター・一輪車などをもって、姉妹園明德土気保育園から男性保育士がエビカニックスに扮し三輪車に乗って登場、子ども達は大喜びでした。初乗りは、習志野市長、福中理事長・子ども、三輪車競争の一着は子ども、このように楽しいサプライズもあり賑やかな式でした。

今後、そでのの保育園が私立として果たす役割は、これまで以上に地域に開かれた保育園であり、創造的な保育を追求し子どもの育つ環境を整え、今を生きることへの喜びを実現することだと考えています。





6月の予定

- 6/8**
オープンキャンパス
34回生同窓会
- 6/10~28**
2年生教育実習(幼稚園Ⅱ)
- 6/11~12**
1年生「学び合いのためのプログラム②」
- 6/13**
研修生相互見学研修会
- 6/21**
研修生スクーリング
- 6/22**
オープンキャンパス
スターバックスお話ライブ
- 6/28**
献花式
- 6/29**
公開講座「めいトーク」

発行：千葉明德短期大学

千葉市中央区南
生実町1412

Tel:043-265-1613

Fax:043-265-1627

e-mail:



- ▲ 1年生の「学び合いのためのプログラム①」での様子。
- ▶ 学校の玄関先に咲いている見事な牡丹。

編集後記

新年度が始まって2ヶ月が経とうとしていますが、新たなサークルが続々と立ち上がる、学生間のつながりを強めようと学友会が動き始めるなど、学校を積極的に楽しもうとする姿があります。教員も学生にエネルギーをもらい、例年以上に元気な気がしています。フレッシュでエネルギーギッシュな明德の新年度のスタートです。

さて、先月号からサイズを変更したこの月歩学歩ですが、貴重なご意見を頂き、文字を大きくしました。試行錯誤しておりますが、学生が「感想」について書いていたように、ウソなく明德の姿をお届けしたいと考えています。また皆様のご意見をお待ちしております。(田中)

tandai@chibameitoku.ac.jp

URL:<http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html>

編集

田中 葵

深谷 ベルタ

鶴田 真二

読者の皆様へ、『月歩学歩』に対するご意見、ご感想をメールにてお寄せ下さい。